

【実践報告】

2019年度教職実践演習授業報告（中・高，栄養）

広島文教大学

教育学部	教育学科	教授	笹原豊造
人間科学部	人間福祉学科	教授	菅井直也
教育学部	教育学科	准教授	白石崇人
人間科学部	人間栄養学科	講師	塩田良子

1 本演習の方針

教育実践演習は「教職課程の履修の全体を通じて身に付けるべき資質能力を最終的に形成し、その確認を行うための総合実践」として位置づけられる。この演習では、「教員として求められる4つの事項として、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解に関する事項、④教科等の指導力に関する事項」について研修を深めることを目的とする。

この目的を達成するために、「演習（指導案の作成や模擬授業・場面指導の実施等）や事例研究、グループ討議等を適切に組み合わせて実施することや、教職経験者を含めた複数の教員の協力方式により実施すること」などが求められている。

2 活動スケジュールおよび活動場所（模擬授業室）

	日程	テーマ，活動内容，場所など	主担当
1	10.01	ガイダンス ①授業のねらい・計画・評価など ②各担当者の授業概要と事前事後学修	全教員
2	10.05 (土)	特別支援教育の今日的課題Ⅰ～幼児と低学年児童の場合～ 121教室レポート提出	古田 (講師)
3	10.08	特別支援教育の今日的課題Ⅱ～高学年と中学生の場合～ 121教室レポート提出	古田 (講師)
4	10.29	今日的教育課題に対して(1) 教育課題に関して調査し発表，質疑応答	資料[1] 参照 笹原
5	11.05	今日的教育課題に対して(2) 教育課題に関して調査し発表，質疑応答	資料[1] 参照 笹原
6	11.12	保護者とのコミュニケーション より良い学級運営を目指して「学級通信」の活用	資料[2] 参照 菅井
7	11.19	道德教育のワークショップ 情報モラル教育・いじめに関する事例についてディスカッション	白石
8	11.26	道德の模擬授業(1) 道德教科書を用いての模擬授業	資料[3] 参照 菅井
9	12.03	道德の模擬授業(2) 道德教科書を用いての模擬授業	資料[3] 参照 塩田

10	12.10	保護者・地域対応のワークショップ クレーム対応講義, 校長・担任・保護者・観察者に分かれてロールプレイング	白石
11	12.17	英語教育・栄養教育に関する授業実践(1) 英語教育・栄養教育に関する模擬授業	資料参照[4] 笹原・塩田
12	12.24	英語教育・栄養教育に関する授業実践(2) 英語教育・栄養教育に関する模擬授業	資料参照[4] 笹原・塩田
13	1.14	学級づくり関連実習(1) 学級開きの指導案を作成し, 模擬授業	資料参照[5] 菅井
14	1.21	学級づくり関連実習(2) 学級開きの指導案を作成し, 模擬授業	資料参照[5] 菅井
15	1.28	まとめ「私の目指す教師像」 これまでの授業を踏まえて, 目指すべき教師像を発表	資料参照[6] 菅井

今年度は受講学生が6名である。少人数ではあるが故に、より討議を深めることが期待できる。充実した討議のために、以下のような指針を与えた。

資料[1] 今日的教育課題について、以下の課題から1つを選び、調査し発表する。発表者以外も事前に調査し、2個以上の質問事項を準備する。これ以外の課題に取り組むことも可とする。

- 課題(1) 戦後の学力観の変遷(学習指導要領改訂の経緯を基に)+あなたの考える学力とは
- 課題(2) 憲法成立の経緯と改正への動き+あなたの考える学校での有権者教育とは
- 課題(3) 「いじめ防止対策推進法」成立の経緯+あなたの考えるいじめを防ぐ対策とは
- 課題(4) 不登校の現状とその取り組み+あなたの考える不登校への対処法とは
- 課題(5) 校則をめぐる諸課題+あなたの考える校則のあり方とは
- 課題(6) 道徳教育教科化への諸課題+あなたの考える道徳教育とは
- 課題(7) 教師の勤務実態と学校での働き方改革の経緯+あなたの考える働き方改革とは
- 課題(8) 体罰が社会問題化した経緯+あなたの考える教師と体罰に関わる問題点とは

資料[2] 保護者とのコミュニケーションを図るために、「学級通信」を作成してみよう。以下の話題を「学級通信」の記事にしてみよう。これ以外の話題でも可とする。

- 話題(1) 遅刻が増えていることへの対処
- 話題(2) 忘れ物が増えていることへの対処
- 話題(3) 盗難事件が起きてしまったことへの対処
- 話題(4) 窓が壊れたがその当事者が名乗り出ないことへの対処
- 話題(5) SNSでのいじめが起きたことへの対処
- 話題(6) けんかがあり、当事者の1名がけがをしたことへの対処
- 話題(7) 数名の生徒が服装・髪型が学校の基準に反している場合の対処

資料[3] 道徳の模擬授業 道徳の検定教科書から各自で話題を選び、それをういて授業(30分)案を構想する。教科書は教育学部資料室で探してください。

資料[4] 英語教育・栄養教育に関する保護者向け説明会(30分)を開催するための企画案を作成する。テーマは各自で考えて設定する。

資料[5] 学級開きの模擬授業の指導案を作成する。あなたが初めて担任としてHR(学活)での模擬授業(30分)を行うこととする。

資料[6] 「私の目指す教師像」4年間の授業を踏まえて、あなたの目指す教師像を発表する。

3 活動の概要

(1) ガイダンス

○活動のねらいおよび実際

大学での教職課程の締めくくりとして本演習が設定されている意義を説明した。また、教育現場に出る前に、1. 本演習の方針内に掲げられている4点についての知見や態度を高めることを到達目標とすることを確認した。

今日的教育課題について調査し発表することは、例年通りである。しかし、今年度は「担当する課題+あなたの考え」を付け加えることを求めた。例えば、いじめの問題については、「いじめ防止対策推進法」成立の経緯を調査し報告するだけでなく、いじめを防止するために、「あなた自身がどのように考えるのか」を求めた。すべての演習項目に共通することは、「あなたが当事者ならどう対処する」かを求めている点である。

(2) 特別支援教育の今日的課題

○活動のねらいおよび実際

特別支援教育に関する基礎的知識を獲得する重要性がますます高まっている。古田先生（講師）も「特別支援教育の理念や視点を通常学級の学級づくりに活かすことは、特別支援を必要とする児童・生徒たちだけではなく、すべての児童・生徒に対しても必要不可欠である」ことを強調していた。

生徒のレポートより：今回の講義で、自閉症の生徒について主に学びました。私は来年から教員として働く予定ですが、どこに配属されるかわかりません。だから、もしかしたら私が担当する生徒が自閉症を持っている可能性もあります。私は教育実習の時から生徒の立場になって考えられる先生になりたいと思っていますが、講師の先生が自閉症の生徒に対して行ってきた工夫を知り、私はまだそこまで考えられる発想がないと思いました。私の中で当たり前のことも他人からしたら当たり前ではないことなんで沢山あるので、もっとこういった点を考えていきたいと思いました。

(3) 教育時事問題

○活動のねらいおよび実際

今年度は学生の調査、発表が精緻で高く評価すべき点があった。例えば、いじめ問題については、いじめの定義の変遷過程を、1986年から2013年までの看過できないいじめ事件と関連付けながら、綿密かつ分かりやすく提示した。また、「私が考える教師としてのいじめを防ぐ対策は」として、○意味のあるアンケートの実施、○記入方法の工夫などを通して、「いじめの早期発見・早期対処」を提案していた。

体罰が社会問題化した経緯についての発表においては、教育現場で体罰を撲滅するための具体的な提案がなされていた。○体罰はいかなる場合でも行われてはいけないもの⇒・教師の仕事は教諭すること、・自分の感情をコントロールできるようにする。（いわゆる、アンガーマネジメント研修の提案）、・教師全員が体罰について理解する。（学校全体でも研修の提案）

(4) 保護者とのコミュニケーション

○活動のねらいおよび実際

学級担任と児童生徒や保護者とのコミュニケーションのツールとして、「学級通信」が活用されることも少なくない。諸般の理由で発行されない場合もあるが、ここでは保護者とのコミュニケーションを図ることを念頭に、学級通信を試作してみることを課した。

中学校の1, 2年生向け、6月、9月、10月と、小学校向けの11月、何れもA4版1頁が提出された。

中学校向けでは、何れの作にも服装・髪型の基準を取り扱った記事があり、これをめぐる議論が展開した。小学校向けでは、忘れもの対策が共通していた。

何れも、児童生徒が家に持ち帰り保護者の手元に届いたと仮定して、保護者をはじめ校外の目に触れることを想定すると、稚拙の感を禁じ得ない。私事ながら、担当者の小学校在学時の学級通信は、亡母によりゴミ屋敷に保管され、昭和中期の民俗資料として該地の博物館に収蔵された！長期的に残り得る可能性をもつ刊行物としての認識が要る。内容の必要性はもちろん、学級担任の伝えたい思いが肉迫してくるような、エネルギーなものを期待したい。

（５）道徳教育のワークショップ

○活動のねらいおよび実際

学校の道徳教育は、昨年度から激動の時代を迎えた。新学習指導要領について、小学校では平成30年4月からすでに道徳教育に関する部分（総則の一部と第3章）が施行され、中学校でも平成31年4月から施行された。これからの学校教員は、道徳科を要とした新しい道徳教育を実践していかなければならない。新しい道徳教育の課題は様々であるが、その中に情報モラル教育といじめ対策がある。

本時のねらいは、道徳教育の現代的課題（情報モラル・いじめ問題）に関わる事例について、グループで考えることであった。当日は、以上のような内容を確認した後、文部科学省HPの「情報モラル教育の充実」掲載の教材を使って、情報モラルに関する問題意識を確認・演習した。また、国立教育政策研究所の「情報モラル教育実践ガイダンス」を紹介し、本時の活動の流れについて簡単に確認した。それから、いじめ問題にかかわる情報モラル教育に関する事例を提示し、学生が自分の考えをまとめる時間をとってからグループ討議に入った。履修生が少ないため、1グループで討議した。考察・討議は、個別指導と全体指導や、保護者との連携、全体計画などの具体に関わる問題に沿って行った。

（６）道徳の模擬授業

○活動のねらいおよび実際

道徳の時間をめぐるワークショップに続いて、教材を用いた「道徳の時間」の構想と模擬授業のマイクロティーチングである。小学校5年生（相互理解・寛容）、6年生（よりよい学校生活）、同（国際理解、国際親善）、同（友情・信頼）、中学校2年生（感謝の心・食育）などが取り上げられた。

学校の授業としては、必ずしも実生活のリアリティが求められるわけではないが、教材解釈として、そこを厳しく検討する姿勢が欲しかったとも思う。副読本類の教材には、この点がそぎ落とされていて怪しいものが少なくないから、若い学生が目でここを突く授業の構想や、指摘する討論を期待したのだが叶わなかった。

（７）保護者・地域対応のワークショップ

○活動のねらいおよび実際

本時のねらいは、学校・教師に対するクレーム対応に関するロールプレイングを通して、保護者・地域対応の擬似的経験を行うことである。また、事前に、学校と保護者または地域との関係についてのニュースを履修生自身で選定し、どのような問題や可能性があるか考察する課題を課した。当日は、まず事前課題の確認・共有を行った。次に、教育現場におけるクレーム対応の特徴・背景について確認し、事例に沿ったロールプレイングを行った。ロールプレイングは、保護者からのクレームに関する2つの事例から選択した事例に沿って行った。グループでは、それぞれ教員役・保護者役・観察者（記録係）に分かれてロールプレイングを行った。ロールプレイング終了後、どのような気持ちで応答したか、相手方にどのような気持ちや本音があると感じ取れたかなどについて話し合っ

た。履修生は、実際に見聞きした経験などを生かしてロールプレイに取り組み、事後の話し合いで「あのときどうすればよかったか」など、具体的な対応方法を吟味していた。ロールプレイングは保護者・地域対応の大変さを実感する機会になったようである。また、事前課題は学校・家庭・地域連携の重要性なども考える機会になった。

（８）英語教育に関する模擬授業

○活動のねらいおよび実際

学習指導要領の改訂により、2020年に小学校において英語が本格的に教えられることになった。賛否渦巻き、さまざまな課題を抱えながらの実施であることから、保護者の関心度は高い。英語教師としては、保護者の疑問を解消し理解を深めるために、小学校英語教育に対してある一定の見識を有することは必要である。

学生のレポート「令和２年度 これからの英語授業の方針について」は、「１．はじめに、２．学習指導要領が変わったことについて、３．１年間の授業計画、４．授業時のポイント、５．おわりに」で構成されている。保護者は概略を理解できるであろうが、表立って口に出しにくい点について疑問を解消できるとは言い難い。「塾に行かなくても、だいじょうぶでしょうか?」、「だれが教えることになるのでしょうか?」、「英語を教える環境は整っているのでしょうか?」などは、小学校英語教育に関するアンケートで必ず出てくる不安要素である。これらに適切に対処する必要がある。

（９）栄養教育に関する模擬授業

○活動のねらいおよび実際

平成29年３月、文部科学省より「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育～チーム学校で取り組む食育推進のPDCA～」が作成された。栄養教諭は自身に求められる役割を自覚し、栄養教諭を中核とした食育の推進に関する理解促進に寄与し、学校における食に関する指導及び学校給食の管理などの充実を図ることが期待されている。そこで、家庭との連携・調整を図ることを想定し、２グループに分かれてテーマを設け、保護者向けの説明会の模擬を行った。

テーマ①は、「カルシウムの働きを知ろう」。小学４年生とその保護者が対象。テーマ②は、「学校給食試食会」。小学１年生の保護者が対象。どちらも毎日提供されている給食について、その意図や内容を伝えるものであったが、どのような協力を得たいのか、保護者に届く内容であったかという点で課題が残った。栄養教諭として、自身だけで行う食の指導ではなく、全教職員、家庭・地域からも積極的に食の指導を行ってもらえるよう、全体的な構想や関係づくりにも考え及ぼせることが必要である。

（10）学級づくりの模擬授業

○活動のねらいおよび実際

学級担任教員による学級経営を象徴する場面として、新学年最初の「学級開き」に着目して、この時間を構想し、10分間のマイクロティーチングを行うという、例年通りの課題である。

生徒としての体験は、強く記憶に残っていないのであろうか、モデルにはなっていないようである。校種・学年・クラスサイズ・地域実態などは自由に想定するわけだが、当日のスケジュールの想定など、想像力が及ばない点が目立った。

学級担任として、学級開きのタイミングで児童生徒に何を伝えるか、どうしたら伝わるか、体験を積まないことには会得できないことでもあるが、その前に、「こうありたい」という学生ならではの理想像を示してみたいと思うのは、担当者の期待が過ぎるからだろうか。

(11)「私の目指す教師像」

○活動のねらいおよび実際

例年と全く同じ、「わたしの目指す教師像」を描き、発表することを課して、受講学生それぞれが4年にわたる教職課程履修のまとめをすることをねらった。

学生によって描き出された教師像は、教員は「授業で勝負」するべきことを確認した者、児童生徒のモデルあるべきとする「師範性」を誓う者、ぶれない確固とした自分づくりを課す者、カウンセリングマインドとまでは言わずとも、受容の原則に立つ、「聞き上手」たるべしとする者、自分自身の変革「自分づくり」を課す者などであった。

しかしながら、これら理想像、目標像と、実現のための手段、努力すべき日々の行動が、階層的に整理されて発表されたわけではない。このことは、児童生徒あるいは保護者の立場から見た時には、一抹の頼りなさとなるであろう。学校教員の年齢構成の偏りから、OJTに期待しにくい昨今の現場事情を併せ考えると、在学中に日々継続的なトレーニングが必要なのかもしれない。

(12) まとめ

本年度は、本講「教職実践演習」が15コマに短縮されて3年目である。受講者数の急増もなく、従前通りの雰囲気のままに実施することができた。とはいうものの、学生は、教職に関連する事象に関心を持ち続けたり、追究を試み続ける姿勢に乏しいと言わざるを得ないのも、例年通りである。そしてまた、コミュニケーションの姿勢と技に、いっそうの関心と工夫を求めたい事態も続いている。

教育の場面は多様性の世界である。児童生徒が多様なのはもちろん、その内面の状態は日々刻々異なり、複数のそれらの組み合わせは無限である。教員もまたそうである。それらに応じて、まさに臨機応変の対応をすべく、精緻な観察が求められるし、そこにも教育の本質がある。他方、行き当たりばったりではなく、一貫性ある対応でなければならない。ここにも、教育が内包している本質的矛盾がある。そこに気づいたやに見える学生のいることも指摘しておきたい。

学生の気質か、担当者の至らざるところか、最終学年での開講故に直面させられる残念もあるが、可能な限りの展開を次年度に試みたい。